

令和7年度 中学生の「税についての作文」

縁 県 税 事 務 所 長 賞

当たり前の日々に感謝を忘れず

横浜市立 谷本中学校 第二学年 藤橋 明花



英語の教科書に取り上げられていた一枚の写真、それは大勢の子どもたちが井戸の周りに集まり、白い歯を見せてこっこりと笑っているものでした。ただ題材の一部だと思って、最初は驚く者でございましたが、教科書を読んでみると、その子たちは学校も行けず、毎日何時間もかけ、何往復と歩き、川まで水くみをしていたと書かれていました。そこにあるボランティアグループが手を差し出し、生活に欠かせない井戸を掘ったと書かれていて、平和ボケしている私にはフィクションのように感じました。私は税の作文を書くにあたって、税金について考案ましたが、消費税くらいしか思いつかず、税の仕組みについて、理解できないところが多くありました。インターネット等で調べてみると、税金は私たちの暮らしを支えるためにあり、その主な使い道として、警察、医療、介護、教育、「じみ収集、公園整備や道路整備に役立てられて」とわかりました。そして、緊急時に必要な人や場所、友達と安全に集まる公園でひび、国や市区町村のサポートがあつて成り立つてることを知りました。

教科書を通して知った途上国の子どもたちのことや、税金の使われ方にについて家族と話したとき、私たちと同年代の子どもたちが学校に行けず、家族のために水くみや農作物を作るなどして毎日を過ごしている現

状が今でもあると知り、複雑な気持ちにならうとした。私は公立の中学校に通っているので毎日無償で学ぶことができます。校舎、体育館、プール、机や椅子、授業で使う道具、4円には毎年綺麗な教科書が無償で配布されています。それに少しの子どもたちが教育を受かられるようになり、子ども一人あたり約100万円の税金が使われてこなしが分からました。また最近では、病気や怪我で病院にかかった時、中学生までは無償で医療サービスが受けられます。医療費を心配する必要もなく、薬を受け取ったり、コンビニ等に何度も通えてこなす感謝の気持ちでこなすようになりました。身の回りを見渡すと、当たり前だと思っていた環境は当たり前ではなく、国民一人一人が納めている税金によって私たちの生活が守られていますことを実感しました。

教科書に載っていた笑顔いっぱいの子どもたち、あの子たちの生活が大きく変化したことは素晴らしいですが、日本のように国が国民をサポートする体制が全世界で整い、全ての子どもたちが教育を受けるようになつてこなすと強く願いました。国を超えて助け合って、のびのびの目標にある「質の高い教育をみんな」が叶う日が来るよう、私はそのような世界の実現に向けて今ある環境に感謝を忘れないと誓い、学校での授業を一生懸命に受け、夢に向かって努力してこなさね。

